

【第121号 二〇一五年 一月 五日発行】

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞

TBSラジオ『メイコのいきいきモーニング』取材放送

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049-230-1111 (FAX)230-1112

福音の園® Gospelgarden®は有限会社シャロンの商標

「家族の声」

絆の証“園だより”

姉が福音の園様に入所させていただいてから十年九一歳という高齢までお世話いただきの中で、日毎起こる気分や体調の変化への寄り添い等、ひと口では言い表せない程のご苦労の連続かと思えます。ホーム長様、そしてスタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。「利用者本位」という理念・方針で経験値を積み重ねてきたら、一番忙しいグループホームになっていたと分析されておられます。より良質な介護内容との姿勢は、神の聖域にホームの姿を見るようで、崇高な思いが致します。

さて、第1号から毎月頂いている『福音の園だより』有り難く拝読致しております。

この一通の中には優しさに基づく心配りがずっしり詰まっています、一枚の文書も粗末に出来ません。拝読後、心を込めてファイルするのがお気持ちに對する心遣いと思っております。

講演会のお話の中で、ホーム長様の幼少からの体験は導かれたように現在の天職につながり、入所



者は勿論私共までも救っておられます。「園便り」は園と繋ぎ合う絆の証としてここにあります。(E・Y)

ボランティア体験プログラム参加者の声

この仕事を指すにあたって

先日(注・昨年七月)はボランティア体験プログラム「体験 お世話になりました。学校の福祉の授業では教わらないようなことを、沢山学ぶことができました。なかなか見ることができないおむつの交換や、入浴の介助もお手伝いさせていただきました。(中略) アドバイスをしていただきながら、何回か行なう内に、最初よりはスムーズにできたと感じています。私は技術的な事は全くできません。なので、利用者様とのコミュニケーションに一番力を入れるべきだったのですが、何を話していいのかわからず、黙って座っているだけの時間が沢山ありました。スタッフの方々が色々会話のきっかけを下さったのですが、うまく話すことができず反省しています。食事の介助などももちろん大切な事だと感じました。このお仕事を指すにあたって、大切な事を沢山学ばせていただきました。本当にありがとうございました。機会があれば、またよろしく願います。

(高校3年生 N・R)

新年に寄せて 理念・方針説明

「とても有り難い」ともプラス思考に

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳 「命」を人文字芸で披露する芸人・ゴルゴ松本さんが少年院を訪問したレポート番組を観て、この芸人を再評価することができました。講堂に集められた少年達を前に「漢字」を使って彼らを鼓舞していました。彼の口から飛び出す思いも奇らぬ心揺さぶる言葉に、少年達が次第に心開いていく様子をカメラ

が追っていました。筆箱からペンを取り出しノートに書き写していく。一人や二人でなく全員でした。

『難』の漢字は頭に付ける言葉によって意味が違ってくる。「災難」「困難」はイヤだし避けたいと誰もが思う。ところが、「有」を付けると、「有り難い」となる。イヤな困難も、その人の受け留め方によって、「とても有り難い」と云うプラス思考になる。』

こんなふうにして、幾つもの漢字を使って、次々とホワイトボードで説明していました。「体験と経験とは違う」と云われます。「体験」とはその人の個人的な出来事です。体験のままでしたら解決の糸口が掴めず、「愚痴や嘆き」に終始してしまふ。そこで、誰かに「あなたの体験したことはこういうことだったんですよ!」と教諭してもらおう。体験した物事や現象を、客観的な立場で詳しく見極め、他者にも通じる言葉で体験したことを捉え直してもらおうことにより、体験が経験化されていく。ついに「愚痴や嘆き」からも解放され、なんと「とても有り難い」と云う「プラス思考者」に変えられていくのだ、とゴルゴ松本さんのレポート番組から再認識できました。



御礼 馬鈴薯・玉葱・片栗粉 農園様 北海道

グループホーム探検隊様(日本認知症GH協会埼玉県支部)

新年おめでとございます

迎えました2015年も、確かな支援技術に基づいた「優しさ」と、福音に基づいた「希望」をお届けできるように専心してまいります。 福音の園・川越 職員一同